


一般社団法人 全国高等学校PTA連合会


一般社団法人全国高等学校PTA連合会
 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
 発行人 山田 博章 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール info@zenkouren.org



「共に集い」「対面で会話を交わせる」ことの大切さ

一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 山田 博章

日頃はPTA活動に際しまして、ご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、さる六月に行われました定時総会並びに理事会に於きまして、令和五年度の会長に再任されました「山田」と申します。何卒宜しくお願い申し上げます。

この五月に、私たちが悩まし続けてきた「コロナウイルス感染症」が第二类から第五類にへと引き下げられ、様々なイベントが以前のように戻りつつあり、「四年ぶりの…」という言葉が飛び交うようになつて、私たちの活動に於いても、徐々にではありますがありますが、活気づいてきたように思われます。

コロナ禍以前は、当たり前のように会って会話を交わっていたことが、コロナ禍により行動を制限され、対面での会話も

困難となり、会議は悉く「オンライン」となつてしまいました。

確かに「オンライン会議は遠隔地からでも手軽にできる」という地理的・時間的なメリットは見出せましたが、その反面、「コミュニケーション」が取りにくい」という事も判ってきました。ある程度コミュニケーションが取れてからオンライン会議をするのであればさほど問題は無いかもしれませんが、いきなり初対面でオンライン会議をしようとする、気が知れていない為か、発言をする人も限られ、また、普段なら気軽にできるような会話もオンラインの画面内ではなかなかしにくい、というような事も判つてきました。

それだけが原因とは言えないと思いますが、コロナ禍の期間を終えると一気にPTAへの風当た

りが強くなつたように感じられてなりません。

コロナ禍の期間は「三密を避ける」との方針により、子どもたちにとって今まで当たり前のように行われてきた学校行事が悉く中止となり、大変辛い思いをさせた期間ではありましたが、同様に私たちのPTA活動に於いても思うような活動は行えず、大変歯痒い思いをさせられました。

そのような活動が出来なかつた事を捉えて、PTAは必要ないのではないかと云つたような「PTA不要論」のような声さえ囁かれるようになってきているところもあります。

しかしながら、私たちが行っているPTA活動は、子どもたちが希望に満ち溢れた将来への夢の実現の為に、保護者と教師が共に手を携え合い、陰にな

り日向になりながらも常にバックアップをしていくという、子どもたちにとって必要不可欠な存在であると自負をしております。

また、私たちの全国組織に於きましても、今年度の各地区の大会はほぼリアルに順調に行われ、情報交換会や懇親会も徐々に復活し、以前にも増してより一層の親睦を深める事が出来つつあるように思われます。そして、8月に行われた全国大会の宮城大会に於きましても、久しぶりにリアルに行われた昨年の石川大会の参加者数を上回る多くの参加者の皆様に支えられながら、無事成功裏に終えることが出来ました。これも偏に宮城大会の実行委員会の皆様方の長年のご苦勞の賜物であると、心より感謝を申し上げます。

来年度の茨城大会に

今号の主な内容

会長挨拶	1～2頁	第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会(ご案内)	11頁
第72回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会報告	2～5頁	賠償責任補償制度のお知らせ	12頁
地区トピックス	6～10頁		
東北地区／東海地区／近畿地区／中国四国地区			

も、今回を上回るようなより一層多くの皆さんに参加して頂きますようにお願い申し上げます。

私たちは、コロナ禍がもたらしたメリットとデメリットから多くの事を学び、経験を積み、様々な工夫と試行錯誤を重ね、より良いPTAの在り方を模索し続けてきました。コロナ禍に振り回されただけの三年間にしないためにも、「共に集い」そしてその場にて「対面で会話を交わせる」という当たり前の有り難さを今一度認識し、それによって得られた人間関係を軸として情報や意見を取り交わし、より結束したPTAを築いてまいりたいと思っております。今後どのような荒波が私たちに襲い掛かって来るかもしれないませんが、全国のPTA会員の皆様方のお力添えを頂きながら一つ一つ乗り越えて活動をしてまいりたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



第72回全国高等学校PTA連合会大会

2023宮城大会を振り返って



できるよう参加者の皆様と考えたいとの思いからテーマを設定しました。

大会第1日 8月24日(木)

午前中に、希望者による教育視察が実施され、東北大学のキャンパスツアーと被災地の見学に約500名が参加しました。

午後から6会場で開催された6つの分科会では、基調講演とパネルディスカッションが行われ、様々な角度から問題が提起されPTA活動の役割を考えるきっかけになったと評価しております。また、第4分科会では、基調講演の後、6人ずつ75グループに分かれ、情報交換会が実施され、参加者からは大変好評でした。

大会第2日 8月25日(金)

カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)で午前

9時から全体会が行われました。開会式では、全国高等学校PTA連合会会長山田博章大会会長の式辞に始まり、町田さやか大会実行委員長の開会の挨拶のあとご来賓を代表し3名の方からご祝辞を賜りました。

その後、表彰式が行われ、最初に令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰と令和5年度PTA活動振興功労者表彰が行われました。続いて全国高等学校PTA連合会大会会長表彰が行われ、表彰の最後に特別感謝状が授与されました。

記念講演では、大盛況の中、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督の須江航氏に「伝わる言葉、失敗から学ぶ」と題して講演をいただきました。全体会では、約6,000席を準備しましたが、運営の不手際で座席途中にある空席に案内できず、立つて参加する方が多くいました。

閉会式では、次期開催地茨城県から来年の茨城大会参加への呼びかけがなされ、宮城大会は成功裏に終了しました。



第72回全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会が令和5年8月24日(木)、25日(金)の2日間にわたり宮城県仙台市で大会運営者を含め約6,200名が参加し開催されました。今年度から大会参加校は無料でオンライン視聴ができるようにしました。オンラインだけの参加校は246校でした。

大会テーマは「豊かな杜につむぐ虹の光」、サブテーマに「しなやかな強さで生き抜く力」と掲げました。将来が予測できないVUCAの時代を生きる高校生がしなやかな強さで生き抜くことが

豊かな杜につむぐ虹の光
~しなやかな強さで生き抜く力~

第72回全国高等学校PTA連合会大会
2023宮城大会

日程 2023年 8月24日(木)~25日(金)
会場 カメイアリーナ仙台 他5会場

主催：全国高等学校PTA連合会 主賛：宮城県高等学校PTA連合会

【大会第1日 分科会】

13時30分～16時30分

6会場

第1分科会「地域教育」

1, 203名参加

会場 東京エレクトロン

ホール宮城

「コミュニティスクールとグローバルの光」

地域教育魅力化の

取り組み

(基調講演要約)

講師 宮城教育大学

教授 市瀬 智紀氏

多くの地域では、人口



もあり、学校・PTAが地域と協働し、社会変革を実現していくことがよりよい地域社会を築いてほしい。(パネルディスカッション要約) パネリストからそれぞれ地域と連携した高校の魅力化プロジェクト、中高支援など多岐にわたる居場所づくり、地域にある

減少に伴い地域コミュニティが維持できなくなっている。また、中高生のおお半が地域と関わるものがほとんどなくなっている。そのような中、社会課題解決をテーマにして学校を社会に開きいろいろな活動を通して生徒の自己変容と社会変革が図られている例を挙げ、学校から地域に発信し、学校も地域もともに変わっていくことが地域の魅力化につながることを報告された。また、コミュニティスクールの導入により学校が活性化した例もあり、学校・PTAが地域と協働し、社会変革を実現していくことがよりよい地域社会を築いてほしい。(パネルディスカッション要約) パネリストからそれぞれ地域と連携した高校の魅力化プロジェクト、中高支援など多岐にわたる居場所づくり、地域にある

森を探究の場としての活用などの取り組みが紹介された。その取り組みによつて各々大きな成果を上げており、こうした取り組みにヒントを得て地域教育の魅力化と持続可能な社会づくりを探してほしい。

第2分科会「学校教育」

1, 495名参加

会場 カメイアリーナ仙台

「ICTで広がる

キャリアデザイン」

多様な挑戦で広がる世界

(基調講演要約)

講師 広島工業大学

教授 安藤 明伸氏

生成AIの利用などAI時代になり、従来の考え方を換え、あたらしい概念が必要になっている。学校ではICTを活用した授業が行われ、「探究」型の活動が重視されている。さらに、ICTを活用するだけでなくプログラミング教育も大切になっている。

過去の価値観にとらわれず、プログラミング的思考をもち、自分の意志

で自分の将来に向けてキャリアをいかに構築していくか考える時代になっている。(パネルディスカッション要約) パネリストから宮城県のICTの活用状況、「情報」と「探究」の大切さ、保護者の立場からビジネスにおけるソフトスキル等について、それぞれの立場からICTの活用の必要性や課題を設定して問題解決を「探究」することの効果などが説明された。 AI時代になり調べればわかる時代になったが、知識を習得するだけでなく情報の整理・分析など新しい価値観を認識し、ICTの活用について今後考えていくことが重要になっている。

第3分科会

「レジリエンス教育」

956名参加

会場 トークネットホール仙台

「強く生きるための多様性とコミュニケーションの光」

自己肯定感と逆境から立ち上がる力を育む(基調講演要約) 講師 仙台大学 教授 氏家 靖浩氏 子どもが弱っている時に上から目線で意見するというのでは、レジリエンスが遠のいてしまう。打ちひしがれた高校生に「頑張らなかつたからだ」などとは言わず、まずは聞いてやるのが大切である。多様な方法でコミュニケーションをとつて「こう考えてみたら違う生き方もできるのではないか」と同じ目線で接することがレジリエンスを高めることになる。決して先に怒るのではなく、まずは受け止めてあげること「今落ち込んでいても回復する可能性があるあるんだよ」とその子にとって必要なヒントを穏やかに伝えることが必要である。(パネルディスカッション要約) パネリストから母



親として娘との関係、高校時代の挫折、校長としての経験などそれぞれレジリエンスについて参考になる体験談が話された。その後、会場の参加者からの質問にパネリストが答えながら、子供に対する接し方やレジリエンスについての考え方が深まっていった。レジリエンスは、子ども達にどう対応するかでなく、私たち自身が問われていることなので、同じ悩みを抱えている方がたくさんいることを励みに、悩みながら子ども達に向き合っていけたらよいのではないか。

第4分科会「情報交換会」

481名参加

会場 仙台国際センター
「WithコロナPostコロナにおけるPTAの光」
皆さんで語り合おう
(基調講演要約)

講師 元宮城教育大学
特任教授 野澤 令照氏

PTA不要論など

PTAに対する様々な不満があるのは、PTA活動に対する理解が広まっていない、または深まっていないからではないか。PTA活動の意義の一つに学びの場を提供してくれることがある。また、子ども達は、地域社会の中で育っているのがPTAであり、社会総がかりの教育の中心をPTAが担っているという大きな意義である。大きな時代の変革の中、PTAの役割がますます重要になっていくと思う。

(情報交換会)

6人グループで75組が4会場に分かれ、PTA活動についての情報交換

を実施したが、参加者から大変好評であった。次期大会でも企画してほしいとの要望が多かった。

第5分科会「防災・減災教育」

1,185名参加

会場 仙台サンプラザ
ホール

「いのちと希望を未来になぐコミュニティの光」
教訓から自動・共助の力を育む
(基調講演要約)

講師 東北大学災害科学国際研究所
准教授 佐藤 翔輔氏

豪雨や強い揺れなど災害を起こすきっかけに目が行くが、災害の大きさを決めるのは、脆いか弱いかという脆弱性である。命を守る効果が一番高いのは、災害が起るリスクが高いところに住まないなどリスクを回避することである。VUCAの時代を生きる子ども達に身につけてもらいたいことは、災害や防災・減災を知り、リスクに対して回避・緩和・

第6分科会「主権者教育」

548名参加

会場 東北大学川内萩
ホール

「シチズンシップ教育が育む新たなデモクラシーの光」
現代的諸課題を乗り越える力を育む
(基調講演要約)

講師 東京大学大学院
教授 小玉 重夫氏

これまで日本では、教育の政治的中立性や高校紛争の影響などで学校で政治問題を扱うことに消極的であった。しかし、21世紀に入って選挙年齢を18歳に引き下げることが検討され、シチズンシップ教育が議論されるようになった。文部科学省からの2015年の通達で、積極的に高校生の政治教育を行うことになり、主権者教育が実施されるようになった。その主権者教育で重要なのは、生徒自身が教師と一緒に共通の素材に向かって考え議論することであり、考えることを重視することで主権者教育が効果的に実践できる。

(パネルディスカッション要約)

高校生選挙啓発活動サポート事業の取り組みが紹介され、この活動に参加した大学生のパネリストは投票する大切さを学んだが、友達同士で政治や選挙の話をするのは難しいと感じている。保護者のパネリストからは家庭内での会話やPTA活動などでは選挙についてはほとんど触れられていないのが現状であると話された。啓発活動を実施することで影響を受けた投票した高校3年生が多かったため、高校生同士では政治の話が敬遠されるが、学校や家庭で地域社会の身近なことに關して会話する機会を増やしたり、PTA活動で地域社会の課題を取り上げ、政治に関心が持てるようにすることも必要である。



【大会第2日 全体会】

8月25日(金)

9時〜12時30分

会場 カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)

開会式



▶山田 博章 全国高P連会長

(大会会長式辞)

山田博章全国高等学校PTA連合会会長から昨年の石川大会に続きハイブリット形式で開催されたこと、コロナ禍で失いつつあった「共に集い、対面にて話し合う」ことができることへの嬉しさが、「持続可能なPTA活動」の在り方として、PTA活動は時間と労力がかかる「究極のボランティア」と言えるかもしれないが、「できない理由を探す」のではなく「できる方法を考える」前向きな取り組みの重要性などが話されました。



▶町田 さやか 実行委員長



▶開式のことば



(祝辞)

来賓を代表し、3名の方からこれまでの高P連活動への感謝と今大会開催のお祝いのお言葉を頂きました。

表彰式

最初に、文部科学副大臣 築和生様から令和5年度優良P T A 文部科学大臣表彰29団体、令和5年度P T A 活動振興功労者表彰個人88名が表彰されました。



▶築 和生 文部科学副大臣



▶村井 嘉浩 宮城県知事



▶郡 和子 仙台市長



▶P T A 活動振興功労者表彰 泉 満 前全国高P連会長

続いて、全国高等学校P T A 連合会会長山田博章から全国大会会長表彰個人68名、78団体が表彰されました。最後に石川県高等学校P T A 連合会と第71回石川大会実行委員長栗田真人様に特別感謝状が授与されました。

記念講演

10時40分～11時40分

講師 仙台育英学園高等学校 硬式野球部監督

須江 航氏

演題 「伝わる言葉」

～失敗から学ぶ～

講師須江航監督には、甲子園の決勝戦を終えて、直ぐ駆けつけていただきました。これまでの経験から自分の最大の成果を出す時は、必ず前回や前年に失敗しているの「人生は敗者復活戦」と捉え新しいことに積極的に挑戦しているそうです。講演では、育成、目標、組織力など須江監督が実践していることを具体的な例を挙げながら説明していただきました。失敗から学ぶことはたくさんあり、何度失敗してもできない自分を許して、自己肯定感を下げないで粘り強くこつこつと学び続けることの大切さ、「失敗には再現性があるんだ」と約6,000名の参加者に語りかけていただきました。

閉会式

11時50分～12時20分

山田大会会長の挨拶の後、全国高P連旗が町田さやか宮城大会実行委員長から山田全国高P連会長に返還され、山田会長から次期開催地茨城大会実行委員長に大会旗が授

与されました。

来年度開催地茨城県のP R 動画が会場に流され、水戸黄門のテーマソングのもと登壇した水戸黄門様に仮装した茨城大会実行委員長板倉哲夫様から茨城大会のP R があ



▶次期開催地 茨城大会P R



▶全国高P連旗の授与



東北地区
▼岩手県高等学校PTA連合会

第72回福島大会〜4年ぶりの完全開催〜

第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会を、7月6日、7日に福島市飯坂町のパルセいいざか他で開催しました。

12年前の東日本大震災及び原発事故からの復興の途次にある福島ですが、一昨年2月、昨年3月と震度6強の地震が相次ぎ、公共のホールが軒並み使用できず、福島市街から10数キロ離れた会場を何とか確保しての開催となりました。

大変な不便とともに、翌月には隣の宮城で全国大会も予定され、参加を控える方が多いのではと心配しましたが、1,000名近くの会員が集い、さらにレセプションも復活させ、4年ぶりに従前の大会の形に完全に戻すことができ、鈴木健児大会会長、鈴木進一実行委員長をはじめ、企

画・運営に当たった関係者一同、ほっと胸をなでおろした次第です。

7月6日のレセプションには約400名の参加があり、会場のホテルによると、コロナ禍以降この規模の会合は初とのこととで、十分に用意したはずの福島の銘酒が一滴も残らないほど、久しぶりの交流の機会は大きに盛り上がりを見せました。

二日目の大会は、橘高校弓道部の開催を寿ぐ「巻藁射礼」により、清々しい緊張に包まれる中、全国高P連の山田博章会長からの挨拶、内堀雅雄福島県知事の祝辞をいただき、華やかに幕を開けました。

今大会は、「届けよう、エール〜未来を切り拓く子どもたちへ〜」のテーマのもと、コロナ禍でPTAの活動もさまざま

な制約を受け、その間に社会も大きく変化する中、子どもたちのよりよい成長をいかに支えるかを、共に考えることを目標としました。

メインとなる研究協議は、「子どもたちへのエール、私たちにできること」は「のテーマにより、東北各県連の代表が、各単Pにおける特色ある活動や取組の工夫について発表を行いました。コロナ禍で停滞した活動の再開、学校統合に伴う諸課題への対応等の参考となる内容が多く、それに続く質疑や意見交換、指導助言と併せて、有意義な研修となりました。

講演では、気象予報士で人気のお天気キャスターである齋藤恭紀氏から、「東北の災害リスクと子どもたちの未来」と題して、気候変動や自然災

害についてのデータ分析やそれらへの心構え等について、楽しくためになる話をいただきました。ただ、秋田の豪雨災害や今夏の記録的猛暑の予想は、残念ながらお話のとおりになってしまいました。

その他、原町高校箏曲部、福島高校ジャズ研究部の演奏、さらに作曲家・古閑裕而の母校である福島商業高校吹奏楽部による「栄冠は君に輝く」をはじめとする古閑メドレーの演奏など、生徒たちの活動成果の発表も大会に華を添えてくれました。

大会終了後、実行委員からの反省に、「参加者の皆さんは『祝祭』感を求めていたのでは」という言葉がありました。近年、社会が縮小し、PTAへの疑問もささやかれる中、年々広く会員が集い、学び、交流を図ることは、各種民俗祭祀と同様、会員や組織に新たな活力をもたらす再生の機会としての役割を果たすものと、改めて感じ

たところでした。



▲齋藤恭紀氏による講演



▲各県代表による研究協議



▲大会の成功を予祝する「巻藁射礼」

東海地区
岐阜県高等学校PTA連合会

令和5年度東海地区高等学校PTA連合会
「岐阜大会」

東海地区高P連では、地区大会開催日の午前中に各県役員による総会を行い、午後から大会を開催しています。6月16日

し、来賓の岐阜県教育委員会教育次長の中川敬三様、岐阜県高等学校長協会会長の石田達也様から祝辞をいただきました。

（金）令和5年度東海地区高等学校PTA連合会「岐阜大会」を岐阜市の長良川国際会議場で開催し、東海4県から612名の参加がありました。昨年度の愛知大会は、新型コロナウイルス感染症の影響もあつて各学校1名の人数制限を行いつながら対面で実施を試みました。今年度は準備段階から開催方法を検討し、各学校2名という人数制限をして行うことになりましたので、例年より人数は少なめですが盛大に開催することが出来ました。

開会式では、東海地区高P連の後藤栄一郎会長、全国高P連の山田博章会長が主催者として挨拶



▲開会式

開会式に続き、株式会社プラススマイル代表取締役でアンガーマネジメントコンサルタントの濱崎明子氏が「学校や家庭で役立つ心理学」の想い

を伝えるアンガーマネジメント」というテーマで講演会を行いました。怒りの正体、怒りの記録、怒りのコントロール、想いの伝え方の順で分かりやすい説明と日常生活場面を事例に挙げながら講話をしてもらいました。参加者から自分の生活を振り返りながら大変勉強になったと感謝の声が多くありました。



▲講演会（プラススマイル 濱崎明子氏）



▲研究協議（岐阜県立武義高校）

その後、研究協議を行い、岐阜県立武義高校PTAが『コロナ禍に負けない、PTA活動』、静岡県立静岡農業高校PTAが『静岡農業高校PTAの活動』というそれぞれのテーマで発表を行いました。

武義高校は、学校名の由来から始まり、保護者大学見学会、学校祭緑日、PTA就職面接指導、挨拶運動・交通安全指導など、コロナ禍で制限されましたが工夫してPTA活動をされたことが紹介されました。このようにPTA役員として前向きに学校と関わることで一



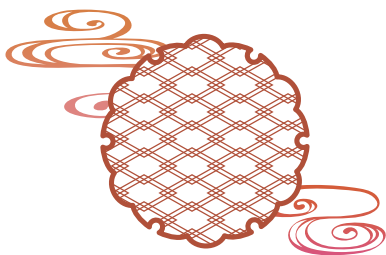
▲研究協議（静岡県立静岡農業高校）

層学校の様子や先生方の考え方が理解できるようになったとの報告がありました。

また、静岡農業高校は、学年委員会と専門委員会（文化委員会・安全委員会・進路委員会）の活動について紹介がありました。特に専門委員会の文化委員会では全保護者対象のPTA研修旅行の企画や実施をしていること、安全委員会では地域の会議へ参加し非行や不審者情報の共有をしたり交通安全指導をしていること、進路委員会では地元講師の教育講演会の企画運営をしていること

が発表されました。2校ともコロナ禍で活動制限されながらも工夫して活動された実践状況が発表されました。発表後は参加者からの質問が多く出るなど、子どものために地域とのかかわりに軸足を置いた両校の発表は、多くの学校の参考となりました。

最後に、次年度開催県の三重県を代表して、鈴木寛子三重県高P連副会長が閉会の挨拶を行い、次年度は令和6年6月21日（金）に津市の「三重県総合文化センター」で開催することをお知らせし、無事に大会を終えました。



近畿地区 ▼滋賀県公立高等学校PTA連合会

近畿地区高等学校PTA連合会大会滋賀大会の報告



第48回近畿地区高等学校PTA連合会大会滋賀大会が令和5年7月1日(土)、YMITアリーナ(くさつシティアリーナ)において、近畿地区各府県市より約1,100名の会員の現地参加と、117校のオンライン参加により盛大に開催されました。滋賀県立守山中学校・高等学校吹奏楽部

のウエルカムパフォーマンスで幕を開け、近畿地区連合会長の炭谷将史会長から「この大会を、これからPTAを考えるきっかけづくりにしたい」と大会開催に向けてのあいさつの後、山田博章全国高P連会長、大杉住子滋賀県副知事(知事代読)、橋川渉草津市長の祝辞をいただきました

た。また、広報誌コンクール表彰・功労者感謝表彰といった開会行事を行いました。記念講演ではドイツ在住のジャーナリスト高松平藏氏をお迎えし、「ドイツからの眼差し、未来志向でPTAを考える」と題してのご講演をいただきました。ドイツの学校教育や保護者の様



子を紹介され、日本の今後の学校教育はどうなっていくべきなのか、またPTAはどのように支えていくべきなのかを未来志向で考えていこう。とお話されました。

かつ氏(司会者)・中島美徳氏(草津市PTA)・炭谷将史氏(近畿連合会会長)でシンポジウムを行いました。約1時間と短い間でしたが、PTAの在り方やその意義、現在の状況、今後のPTAについて等、活発な意見交換がなされました。

あつたと思います。閉会行事では、本田真司大会副会長の提案による大会宣言とその決議、次年度開催地(京都)からの挨拶があり、最後には琵琶湖よし笛演奏によるグッバイパフォーマンスと共に、那須康一滋賀大会実行委員長の閉会挨拶で大会は無事終了しました。



中国四国地区 ▼ 鳥取県高等学校PTA連合会

「倉吉農業高等学校の教育とPTA活動」

1. 学校概要

國本「農は國の本（もと）なり」く明治34年小松宮彰仁親王から賜った親書よりく

本校の前身は明治14年に郡立として創立された久米河村農学校で、明治18年に県立に移管され鳥取県立倉吉農学校となりました。爾来幾多の校名、学科の変遷を経て今年で県立として創立138年になる本県農業教育の基幹校です。また、祥雲寮（しょううんりょう）を有し、全国に24校ある文部科学省指定農業経営者育成高等学校の1校です。現在の設置学科は生物科、食品科、環境科の3学科であり、農業や関連産業を通じて地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目指しています。また、地

域みらい留学で県外生募集もおこなっており、全国から14名の県外生徒が寮生活をしながら学んでいます。

2. 本校の特色

(1) 生物科

農業の基本である動物の飼育、植物の栽培を中心に据え、幅広い農業知識及び技術の学習し、農業の多面的機能を理解するとともに、農業経営者をはじめとして地域社会で活躍できる人材の育成を目指しています。県内で唯一、畜産を学ぶことができる学科です。2年次からは畜産コースと園芸コースに分かれます。畜産コースの主な学習は乳牛の飼育管理が中心となる酪農部門と養豚、ヤギ、鶏などの中小家畜の飼育と乗馬を通し

た交流を学ぶ応用動物部門とがあり、畜産の知識及び技術の習得に加え、命を大切にすることも育成しています。園芸コースは野菜と果樹の栽培を通して園芸の知識及び技術の習得を目指しています。特に本県の代表的な園芸作物であるスイカと二十世紀梨の栽培を中心に学んでいます。また、最近では耕作放棄地対策として本県の特産品化を目指した青パパイヤ栽培の研究を継続しています。生物科では1年生の入寮し、文字通り「同じ釜の飯を食べて」農業の基礎・基本を学んでいます。



▲あぐりキッズスクール（乗馬）

(2) 食品科

アグリビジネスの広がりに対応し、食品の製造から流通・販売にいたるフードシステムを総合的に学習し農産物に付加価値を付けた経営ができる人材の育成を目指しています。

2年次からは食品コースと流通コースに分かれます。食品コースでは原材料の生産から食品の製造に関する知識を習得するとともに安心・安全な食品を製造するための能力や態度を育成しています。主な加工食品は味噌、醤油、福神漬けやソーセージ、ハム、ベーコンなどの肉加工品があります。

す。いずれも食の安全・安心を裏付けるJFSB規格に則った製造実習を行っています。流通コースは本校で生産された農産物を校内外における販売実習を通して、マーケティングについての学習やコミュニケーション能力の向上を目指しています。また、水稲栽培においてコマに付加価値を付け、有利販売を目指すために良食味米の生産にも取り組み、全国農業高校お米甲子園では9年連続入賞という結果を出しています。また、ドローンやロボットトラクターなどに代表されるスマート農業も水稲栽培に取り入れています。



▲新嘗祭参加

(3) 環境科
自然環境の保全の基礎となる森林や土木、快適な生活空間を創造する草花やガーデニングについて学習し、コミュニケーション能力や社会性を養い、環境問題を多角的にとらえて地域に貢献できる人材の育成を目指しています。

2年次からは森林・土木設計コースとフラワー・ガーデンコースに分かれます。森林・土木設計コースでは主に森林がもたらす環境保全、循環型社会の形成、資源の有効活用に関する知識や木材加工技術について学び、自然と人工物の調和を目指す土木関連の学習を通して多くの資格取得を目指しています。また、建設・土木業界の担い手育成にも取り組み、中部建設業協会青年部の協力によって、校内においてアスファルト舗装実習や校外における測量技術研修会、中部土木施工管理技士会との連携による現場

3. PTA活動について
 本校PTAは、年度当初に信任された会長と副会長3名（内1名は給食実施委員会会長）、4つの専門部で組織され、教育支援部の教職員と管理職が活動を補佐しています。ふれあい活動部は、強歩大会第2関門でのバザー及び倉農祭（生産物販売）におけるシフォン

見学会や県土木整備部測量競技会への参加など外部関連団体と多くの連携事業を実施して専門技術習得に取り組んでいます。フラワー・ガーデンコー스는快適な生活空間を創造するために草花、造園に関する知識や技術について学び、「花育」を通して小中学校との交流により、コミュニケーション能力の向上も目指しています。倉吉駅北口花壇の植栽、保育所・小学校との花育をおとした交流、フラワーアレンジメントでは県の上位成績を残しています。

今年度は、倉農祭に全ての専門部が出店をし、ナンカレーや大山乳業のシュークリーム等の販売を行いました。保護者の協力を得てとても賑やかで活気ある生産物販売の会場になりました。また、PTA役員のOB・OGで組織される「錦野会」も毎年出店していただいています。各家庭の農産物を持ち寄り販売され、その売上額を部活動後援会に寄付していただいています。

ケーキの製造販売を行っています。研修部は、農場と連携した活動を保護者会期間中に実施し、ウインナーソーセージ作りやクリスマスリース作りを行っています。広報部は、機関紙「倉農通信」の編集と発行を年2回行っています。人権教育部は、人権教育講演会の実施や現地研修等を行っています。コロナ前は、ハンセン病の施設長島愛生園を訪問して学習を行いました。



▲PTAバザー



▲強歩大会バザー

このように、生徒の活動を側面から応援していただき卒業後も交流のあるPTA活動が本校の特色となっています。

4. おわりに
 今年からコロナ前の活動に戻り、生徒の活気が戻ってきました。特に連携事業は多く、産学官の連携による課題研究のレ



▲生産物販売



▲錦野会（PTA役員OB・OG会）

ベルアップを図っており、全国高校生ビジネスプラン・グランプリでは、昨年度セミアイナリスト、今年度ベスト100に2テーマ選出していたことができました。少子化、過疎化、高齢化、耕作放棄地の増加等様々な課題を農業のものづくりから人づくりへと転換し、ビジネスチャンスと捉えて鳥取県の自然豊かな環境で今後もPTA活動を更に活発化して学校全体を盛り上げていきたいと思いません。



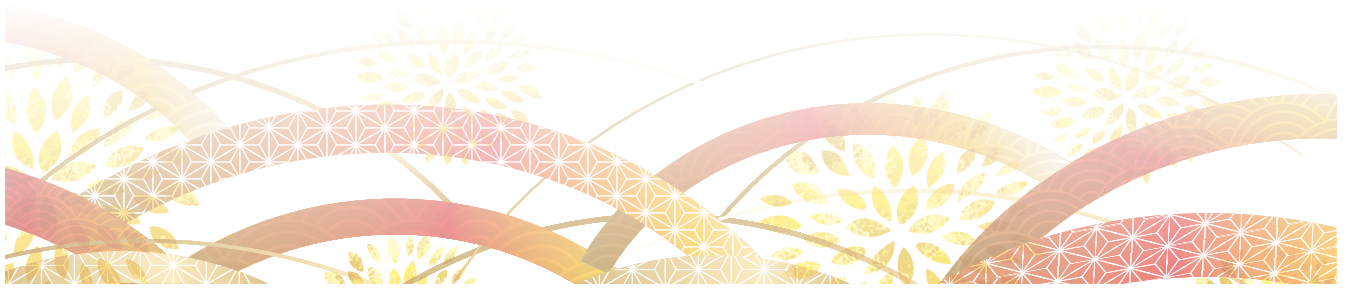
▲学校HP



▲学校 Facebook



▲学校 Instagram





国営ひたち海浜公園

第73回全国高等学校PTA連合会大会 2024 茨城大会のご案内



袋田の滝

歴史の町で変革を!! ～ 新たな時代が目に入らぬか ～

- 【期 日】 令和6年(2024年)
- 【会 場】 分科会(水戸市3会場、ひたちなか市・小美玉市 各1会場)
全体会(アダストリアみとアリーナ)

【日 程】

第1日 8月22日(木)

○教育視察(希望者)

9:00~12:00 (偕楽園、弘道館等)

○分科会(受付12:00~)

13:00~13:20 開会行事

13:30~14:50 講演1

15:05~16:25 講演2

またはパネルドイスカッション

16:30~16:40 閉会行事

第2日 8月23日(金)

○全体会(受付8:30~)

9:00~9:30 アトラクション

9:30~10:30 開会行事、表彰式

10:40~11:50 記念講演

12:00~12:30 閉会行事



【分科会テーマ】

第1分科会 会場：アダストリアみとアリーナ 「教育の過去・現在・未来」 ～ 故きを温ねて新しきを知る ～	第2分科会 会場：ザ・ヒロワ・シティ会館 「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」 ～ 新たな一歩を踏み出すために ～
第3分科会 会場：水戸市民会館 「新・生きる力と家族の絆」 ～ 子どもの心に風邪を引かせない ～	第4分科会 会場：ひたちなか市文化会館 「みんなで考えよう、これからのPTA」 ～ あるべき新しい姿とは ～
第5分科会 会場：小美玉市四季文化館みの〜れ 「これからのコミュニティ・スクール」 ～ 地域社会との新たな連携・協働 ～ (仮)	皆様の参加を心よりお待ちしております 茨城県高等学校PTA連合会 茨城大会実行委員会

全国高等学校 PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？
全国加盟高校の 2 校に 1 校が加入しています。

掛金

年間 400 円 (保険料 391 円 + 制度維持費 9 円) × 生徒数

※補償開始日が令和5年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 4 月 1 日

補償の範囲と支払済高額事故事例

<生徒もしくは P T A に過失があった場合が対象となります>



補償の範囲	補償限度額	事故発生 件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1 事故 1 億円 自己負担額 1 事故 5 千円 (注) 対人事故・対物事故合算して 1 億円が限度となります。	99%超
2. P T A 活動の遂行に起因する賠償責任 (P T A の賠償責任保険)	対人 1 名 5 千万円・1 事故 5 億円	1 %未満
	対物 1 事故 5 千万円 自己負担額 1 事故 1 千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者 1 名 1 0 万円 保険期間中 500 万円 自己負担額 1 事故 5 千円	

年度	支払金額 (千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の自転車 ^(注) で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 [過去最高支払金額]
H24年度	22,460	プライベートで外出中、自転車同士の接触事故。相手方脳挫傷となる、5 か月後に死亡させた。
R1年度	47,549	自転車走行中、対向の歩行者を見て右に避けたところお相手歩行者も同じ方向に避け衝突した。
R2年度	44,352	マスコミ報道事案/免責 5000 円/重複他社損保ジャパン社あり

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、**自転車事故に限らず国内における事故を 2.4 時間、幅広く補償しております**☆

詳しくは、「全国高 P 連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ 1 月下旬にお送りしています。)

● 制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会
東京都千代田区神田佐久間町 2-1
奥田ビル 301 号
TEL.03-5835-5711

● 引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当：公務第二部 文教公務室)	TEL.03-3515-4133
共同引受保険会社	AIG 損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社	TEL.03-6848-8480 TEL.03-3259-4061 TEL.03-3349-9588

AIG AIG 損保

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会後援
AIG 高校生外交官プログラム
(参加費無料)
<https://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、
子どもたちの未来。」
私たちは AIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG 損害保険株式会社
TEL.03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

MS&AD 三井住友海上

安心のゴールキーパーでありたい。

クルマの保険

すまいの保険

ケガの保険

マングローブの森づくり。
それは、豊かな地球を
未来に届けること。

マングローブ価値共創
100 年宣言

東京海上日動
www.tokiomarine-nichido.co.jp

損保ジャパン
SOMPO Innovation for Wellbeing

Innovation for Wellbeing

すべての人々の幸せと、
より良い社会のために。
私たちは、
笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、
イノベーションを起こし続けます。

損保ジャパンは SOMPO グループの一員です。
損害保険ジャパン株式会社
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

